

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ロジックス 豊田南物流セン	階数	地下0階地上2階
建設地	豊田市前林町東池16 始め19筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条指定区域	平均居住人員	20 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,928 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年10月23日
敷地面積	23,003 m ²	作成者	林 大輔
建築面積	11,330 m ²	確認日	2019年10月28日
延床面積	20,719 m ²	確認者	林 大輔



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.0	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	まちなみ	地域性
1.0	3.0	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	3.6	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	3.1	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.4	3.1	3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>25.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	25.4 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	25.4 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口															
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度														5.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質														3.0	
4.2 換気															
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
Q2 サービス性能															
1 機能性														0.43	
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性														0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														4.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														0.1	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

独自

②

②

カーペット、ビニル床シートを使用

主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用

設備各仕様書にて建築設備耐震設計施工指針Aランク指定有

3 対応性・更新性				0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり		②	ゆとりある設計をしている 階高6.5m 壁長さ比率=0.060	0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり				-	5.0	0.60	-	3.0	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.2	
LR1 エネルギー						0.40				3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.28	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.74	3.0	3.6	0.43	-	-	-	3.6	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.3	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			省水型機器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		② 独自	種類: 炭石膏(石膏ボード) 部位: 壁	3.0	3.0	0.21	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		② 独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	4.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含有しない建材種別が4つ以上	3.0	5.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1 消火剤				-	-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30				3.2	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率88%	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4	
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車・駐輪スペースを設けている	-	5.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	-		
2 振動		独自		-	-	-	-	-	-		
3 悪臭				-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策がイトラインのチェックリストを過半を満たす	-	5.0	0.70	-	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社ロジックス 豊田南物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:25.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と、建物の長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高H=3.9m以上を確保し、壁長さ比率0.06により空間の形状・自由度を考慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル資材を活用する
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。